

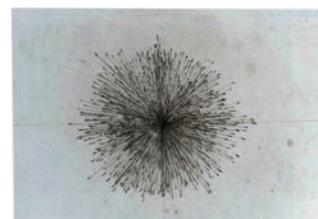
伏木田光夫 — 作品年譜 —

a chronological list of MitsuoFushikida' s works.

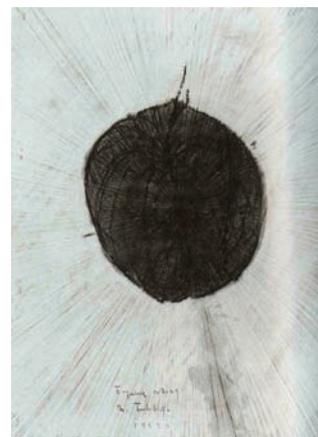
FushikidaMitsuo
Personal Archives

<http://da09.media.scu.ac.jp/>

- 1935年 (0歳) 7月15日 菓子店を営む父・眞澄、母・ミツヨの三男として生まれる。
兄2人、弟1人妹1人の5人兄弟であった。
- 1942年 (7歳) 浦河町立浦河小学校入学。
- 1948年 (13歳) 浦河町立浦河小学校卒業。浦河町立浦河第一中学校入学。
- 1950年 (15歳) 中学校の担任で美術教師の大友一夫の影響を受けて油絵を始める。
- 1951年 (16歳) 浦河町立浦河第一中学校卒業。北海道立浦河高等学校入学。
全日本油絵コンクール入選《港》
- 1952年 (17歳) 北海道大学農学部を会場に行われた国画会夏期講習会にて、原精一に師事。以後
交流が続く。
道展初入選《漁舟》
- 1953年 (18歳) 第8回全道展初入選(札幌井今井百貨店。以下同会場)《白い夜》
谷口正義、伏木田光夫二人展(浦河・消防署二階)
浦高七人展(札幌富貴堂)
高校演劇の脚本を手がけ、上演する。
- 1954年 (19歳) 北海道立浦河高等学校卒業。
上京し、武蔵野美術学校西洋画科入学。
第28回国画会展《夜の詩人》
第9回全道展《夜想詩》
第1回国画会北海道作家展(札幌・大丸ギャラリー)《ある夜の出来事》
- 1955年 (20歳) 第29回国画会展《争い》
第10回全道展《現代の神話 - 戦争》。全道展奨励賞受賞。
- 1956年 (21歳) 第30回国画会展《兵士昇天》
第11回全道展《静物(卵)》
親友・谷口正義死去。
青んぼ展(東京新橋サイトウ画廊)蛭子喜悦・菅野充造・伏木田光夫の三人展
- 1957年 (22歳) 第30回国画会展《素敵な結婚式》
絵画空間・球体の研究とデッサンを始める。
- 1958年 (23歳) 武蔵野美術学校西洋画科卒業。
第32回国画会展《黒いテーブルのある静物(叱られた日)》
浦河町にアトリエを持ち仕事を始める。
北海道大博覧会招待出品(札幌・豊平館)《乾燥のある風景》
- 1959年 (24歳) 浦河町絵苗に農家の納屋を借りて生活を始める。
飯田恭子と結婚。
第33回国画会展《カニのある静物》
第1回個展(札幌・丸善画廊)



《リンゴ No.112》
1957年
鉛筆、紙
27.0×37.9cm



《リンゴ No.129》
1957年
油彩・インク・鉛筆、紙
64.4×48.0cm



《叱られた日》
1957年
油彩
228.0×182.0cm

1960年 (25歳)

第34回国画会展《やせっぽマリア》
第15回全道展《聖家族》
第2回個展(札幌・丸善画廊)
浦河町堺町に転居。
日高報知新聞連載小説 中原均(後の、たか・たかし)著
「かさぶた」の挿絵を担当(20回中5回)



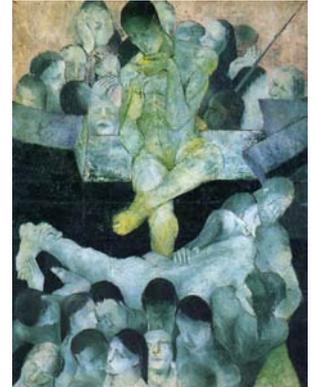
《死》
1961年
油彩・油性パステル、板
116.8x91.5cm

1961年 (26歳)

第35回国画会展《聖家族》
第16回全道展《死》《家族の死》。全道展協会賞受賞
全道展会友推挙
個展「牧野法郎に捧ぐ」(札幌・コージーコーナー画廊)
第3回個展(札幌・丸善画廊)

1962年 (27歳)

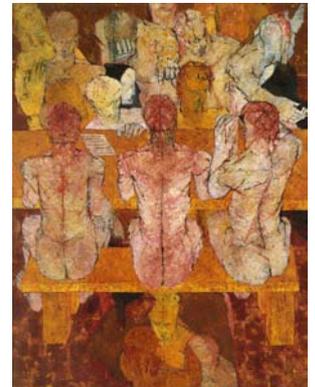
第4回北海道版画展(札幌大丸ギャラリー)
1961年度各公募展受賞者エントリー・北海道新人作家選抜美術展
(札幌・HBC三条ビルギャラリー)《家族の死》。
第36回国画会展
第17回全道展《死者のために》《F家の肖像》。全道展会友賞
全道展会員
グループ・北緯結成(福井正治、大久保一良、伏木田光夫。後、解散)
グループ・北緯展(札幌・HBC三条ビルギャラリー)
(63、64、65年参加出品)
伏木田光夫油絵小品展(北洋相互銀行浦河支店)
第4回個展(札幌富貴堂画廊・コージーコーナー画廊)
札幌在住作家選抜美術展(札幌・HBC三条ビルギャラリー)



《北方の人》
1963年
油彩、板
183.2x137.3cm

1963年 (28歳)

第37回国画会展《北方の人》《F家の裁き》。国画会国画賞受賞。
第18回全道展《人間の季節(風景)》
伏木田光夫油絵小品展(北洋相互銀行浦河支店ホール)
第5回個展(札幌・HBC三条ビルギャラリー)



《F家の裁き》
1963年 油彩、板
183.6x137.7cm

1964年 (29歳)

第38回国画会展《-人間の季節-晚餐》
国画会会友(1977年6月退会)
伏木田光夫デッサン展(札幌・北海道銀行鳥居前支店)
3グループ(オード、組織、北緯)合同展(札幌・HBC三条ビルギャラリー)
第19回全道展《朔北の人々》
第6回個展(札幌・HBC三条ビルギャラリー)

1965年 (30歳)

第39回国画会展《北方の家族》
20周年記念全道展《漁師の家》
個展(札幌大丸藤井画廊)
第1回全北海道勤労者美術展《二人》《漁師の部屋》。道教育委員長賞受賞。

1966年 (31歳)

第40回国画会展《人間の季節(愛)》《F家の日曜日》
第21回全道展《人間の季節-愛-》
個展(札幌大丸藤井画廊)
個展(浦河労働会館二階)
北海道教育大学岩見沢分校非常勤講師(美術実技担当)。1968年3月まで。
個展(北洋相互銀行厚岸支店二階会議室)

「薔薇の塩」ノート(美術ペン42, 1979年)より
僕の幼い頃の最も恐い夢は、僕が父を殺して砂浜に埋めるものでした。黒い雨合羽を幾重にもして、故郷の川の縁に埋めるのですが、雨の日その死体は手を出すのです。「あー、これが夢ならどんなにいいだろう」と僕は幾度も夢のなかで神様に祈りました。夢は繰り返しますが、僕を悩まし続けたのは原罪の意識であった。僕の内面の形成は、どんな父のようになろうとする自分から、どう逃れることが出来るかに始まりました。

1967年(32歳)

第41回国画会展《人間の季節(春)》
第22回全道展《人間誕生》
個展(札幌・大丸第2ギャラリー)

1968年(33歳)

第42回国画会展《人間の季節-春-》
第23回全道展《東方の悲しみ》
個展(HBC三条ビルギャラリー)

1969年(34歳)

浦河町社会福祉センター綴帳原画制作
札幌市琴似八軒にアトリエを移す。
日本美術家連盟研究員として渡仏。
グラン・ミシヨエール美術研究所にて研修。
第24回全道展《寡婦》
サラン・ドートンヌ出品《シャンブル》

1970年(35歳)

第5回トラブール国際グランプリ(リヨン)招待作家に選ばれる。《娼婦達》
ナショナル・ボザール出品《La Nudite'》

1971年(36歳)

全道美術協会会員展(札幌三越デパート)《カルメンマルティン像》
第45回国画会展《巴里の女達》
滞欧作品展(札幌時計台ギャラリー)
第26回全道展《恋人達》
滞欧作品展(浦河福祉センター)
滞欧作展(東京・日動サロン)
第4回北海道秀作美術展(北海道立美術館)《恋人達》

1972年(37歳)

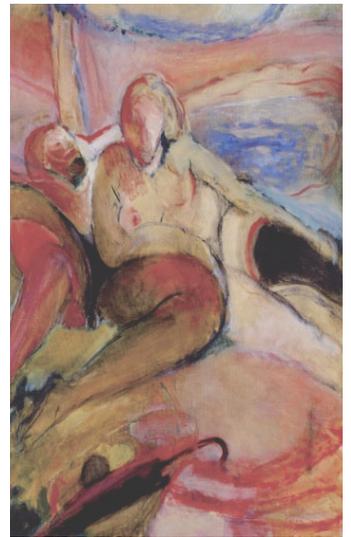
第2回全道美術協会会員(札幌三越)《恋人達》《姉妹達》
第46回国画会展《恋人たち》
第27回全道展《ポントワーズの夫婦》
第5回北海道秀作美術展(北海道立美術館)《女達》
北海道教育大学岩見沢校非常勤講師(美術実技担当)。79年3月まで。
個展(札幌時計台ギャラリー)

1973年(38歳)

第3回全道美術協会会員(札幌三越)《テレホン》《トワレット》
北海タイムス連載「ドキュメント 苫小牧港」(文/木野工)の挿絵を担当(189回)。
父・眞澄死去
第28回全道展《父子像》
個展(札幌時計台ギャラリー)
第6回北海道秀作美術展(北海道立美術館)《父子像》
個展(浦河町福祉センター)
北海道職員等文化祭、絵画部門審査員(以後、現在に至る)
名土色紙展(札幌丸井今井デパート)

1974年(39歳)

第4回全道美術協会会員(札幌三越)《娼婦の像》《男の像》
STVラジオ「日産フラッシュジャーナル」出演
浦河町ファミリースポーツセンター前庭に青少年希望の像《海の少女》設置
第29回全道展《パウロの午後》
個展(札幌時計台ギャラリー)



《恋人们》
1970年
油彩、キャンヴァス
161.8×130.0cm

愛というものは、信じたり、信じられなくなったり、絶えずゆれ動いているものですけれど、僕が描こうとする男や女は、このごろ地上の光と風のなかに目を細め、野獣のしなやかな精神と肉体を夢見て横たわりたがります。
生命の輝きを逃がすまいと、あまり一気に描きすぎたようです。つかんだつもりが逃げていく愛の後ろ姿でした。
第4回北海道秀作美術展図録(1971年)より



《男の像》
1974年
油彩、木炭、キャンヴァス
130.3×189.5cm

1974年 (39歳)

個展 (浦河町福祉センター)
第7回北海道秀作美術展 (北海道立美術館) 《男の像》



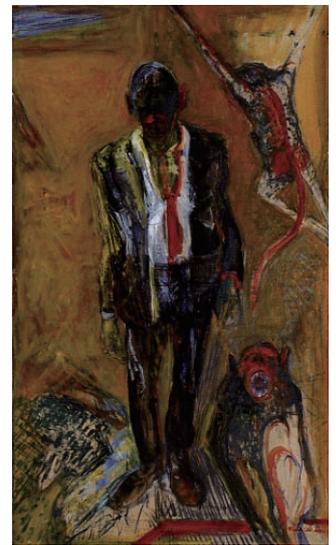
《野生の午後》
1974-75
年油彩、木炭、キャンヴァス
193.6×130.5 cm

1975年 (40歳)

第3回写実画壇展 (東京・上野の森美術館) 《トワレ》《男の像》《父子像》
実写画壇会員
30周年記念全道展 《人間の風景》
大同ギャラリー会館記念さっぽろ現代洋画展 (札幌・大同ギャラリー) 《男の像》
第8回北海道秀作美術展 (北海道立美術館) 《父子像》
個展 (札幌時計台ギャラリー)
個展 (東京・文藝春愁画廊)
第2回札幌時計台文化会館美術大賞展選抜出品。美術大賞候補賞受賞 《踊子》

1976年 (41歳)

第50回国画会展 《踊子》
第4回写実画壇展 (東京・上野の森美術館)
第31回全道展 《野生の午後》
全道展札幌会員展 《札幌・大同ギャラリー》
個展 (札幌時計台ギャラリー)
第3回札幌時計台文化会館美術大賞展選抜出品 《オーヴァをはおる男》
第9回北海道秀作美術展 (北海道立美術館) 《野生の午後》
個展 (浦河町福祉センター)
全道展札幌会員デッサン展 (札幌・大同ギャラリー)



《人間の風景》
1978年
油彩、木炭、キャンヴァス
193.7×112.5 cm

1977年 (42歳)

北星学園大学非常勤講師 (芸術〔美術〕担当)
第51回国画会展 《野生の午後》
国画会を退会
個展 (苫小牧画廊)
第32回全道展 (北海道立近代美術館。以下同会場) 《野生の風景》
旭川秀作美術展招待出品 (旭川・マルカツ6階特設会場)
個展 (札幌時計台ギャラリー)
北海道新聞 (夕刊) にエッセイ「風と釣り」と私」を連載 (11/1～11/26 21回)
個展 (東京・文藝春愁画廊)

1978年 (43歳)

洋画家の墨彩画展 (札幌・エルム画廊)
第1回北海道現代美術展 (北海道立近代美術館) 《卵のある静物》《料理人》
朝日カルチャー絵画教室講師
全道展札幌会員小品会 (札幌・大同ギャラリー)
第33回全道展 《人間の風景》
第1回太動展「生きる」(札幌・ギャラリー太動)
道内作家油絵展 (札幌東急)
個展 (苫小牧画廊)
第124回札幌成人学校講師「わたしの美術論」
個展 (札幌時計台ギャラリー)
会館記念札幌在住洋画招待作家展 (札幌・北24条ギャラリー)

1979年 (44歳)

サムホール秀作展 (札幌・エルム画廊)
第2回北海道現代美術展 (北海道立近代美術館) 《生命のオルガン》《生命のダンス》
新春招待作家展 (札幌・HBC三条ギャラリー)
個展 (浦河町福祉センター)

「ここ数年、僕の仕事は、ますます生命主義といっているような方向に歩き出しているようだ。朝、目覚めると、感覚が目まいをおこすような新鮮で、生まれて初めて、それらを見るような不安のなかにある生命の感覚を手探りする。朝めしを食うと感覚が日常性のなかに埋没してしまうので、やめることにした。それにしても、なんと存在するもの達は日常性や概念や観念の底に沈んでいるのだらう。僕は存在するもの達が、なにもともわからなくなるような、きらめきの世界に入りこもうと、毎日うろろしているようだ。僕はそれを実存感覚とか、サン・シオンという言葉にしているのだが、それらが逃げないように、絵画における完成とか、仕上げという行為は、やめなければならぬと思っている。キラッと輝くものがあれば、生命が燃焼する密度が絵画の密度だと思っている。生命の原始性とか野生へのさそいということの前で毎日、さまよっているのが今の僕のようにだ。」
第31回全道展図録 (1976年よ)

— 生命は爆発だ。

1979年（44歳）

第34回全道展《生命のオルガン》

個展（札幌時計台ギャラリー）

個展（東京・文藝春秋画廊）

北星学園大学講師（美学担当）に就任

1980年（45歳）

第3回北海道現代美術展（北海道立近代美術館）《生命のオルガン》《生命のダンス》

35周年記念全道展《ロマネスク》

個展（札幌時計台ギャラリー）

1981年（46歳）

第4回北海道現代美術展（北海道立近代美術館）《ロマネスク》《アイロンをもてるマリア》

第36回全道展《生命の樹》

小品展札幌・エルム画廊）

個展（札幌時計台ギャラリー）

個展（東京・文藝春秋画廊）

個展（旭川・はまなす画廊）

1982年（47歳）

第5回北海道現代美術展（北海道立近代美術館）《生命の樹》《緋の時禱》

第37回全道展（札幌市民ギャラリー。以下同会場）《生命の朝》《14号室の女》

個展（札幌時計台ギャラリー）

個展（浦河町福祉センター）

アトリエを札幌市南区川沿1条6丁目に移す

1983年（48歳）

北方のイメージ—北海道の美術’83（北海道立近代美術館）《投げ出された者達》

第38回全道展《人間の七つの情景—戦争》

個展（札幌時計台ギャラリー）

個展（東京・文藝春秋画廊）

1984年（49歳）

イメージ・道—北海道の美術’84（北海道立近代美術館）《旅人》

第39回全道展《人間の情景—晚餐》

個展（札幌時計台ギャラリー）

1985年（50歳）

遊びの小宇宙展（札幌・エルム画廊）

40周年記念全道展《音楽》

個展（札幌時計台ギャラリー）

個展（東京・文藝春秋画廊）

浦河町役場ロビーに陶板壁画《生命の大地、浦河》設置



《生命のオルガン》

1979年
油彩・木炭、キャンバス
200.0×200.0cm



《緋の時禱》

1982年
油彩・木炭、キャンバス
200.0×200.0cm